

清潔な水を全ての人に

水は、私たち人間にとって必要不可欠なものであり、日常生活でも色々な場面で使われています。例えば、食事やトイレ、衣類の洗濯、風呂やシャワーにも使われています。また、人間だけでなく、植物や生物にとっても生きていく上で欠かせない存在です。

このように私たちにとって当たり前のようにある綺麗な水。しかし、それが当たり前ではない人たちもいます。世界を見渡すと、家庭に水道が無いばかりでなく、村に井戸さえ無いという地域もたくさんあります。これは、SDGs（持続可能な開発目標）の目標6「安全な水とトイレを世界中に」に当てはまっております、今、注目されている大きな課題のうちの一つになっていきます。

世界では約九億の人々が水に困っているとされています。また、綺麗な水がないこと

奈良女子大学附属中等教育学校

三年
廣谷 美羽

で、年間約一八〇万人の子どもたちが命を落とされています。この原因は飲料水が糞便で汚染されていることや、衛生的なトイレが無いこと、汚染水が廃水処理されないためだそうです。このような不衛生な環境は、肺炎やマラリアなどの原因ともなり、子どもたちの命を脅かすことに繋がるのです。私は同じ地球に住んでいる者として、これらの問題に対して大人・子供関係なく、すべての人たちが興味・関心をもって解決していく必要があると思います。例えば、この状況を学校の授業の中で紹介したり一緒に考えたり、頻繁にニュースで紹介したりすることです。それこそが、清潔な水を簡単に手に入れることができる私たちのすべきことなのではないでしょうか。皆さんは、中村哲医師を知っていますか。中村さんは、二年前に海外の支援先で武装し

た人たちに銃で撃たれて亡くなりました。医師だった中村さんは、国際医療N.G.Oの総院長でした。日本国内での病院勤務を経て、パキスタンとアフガニスタンの国境地帯でハンセン病の治療を始めたり、難民キャンプで一般診療に携わったりしていました。このような数々の活動の中でも私が最も驚いたのは、水が不足している村に、大きな川から清潔な水を引いたということです。この村では、人々の間で謎の病気が大流行していました。そこで中村さんは、病気の原因が「水」であることを自ら発見し、村の人たちに伝えました。例えば、皆が飲んでいる水が山頂でできる雪解け水が川を下りこの村にたどり着く間にたくさんの悪い菌が混ざっていたこと、菌が混ざるのを防ぐために生活用水と農業用水を分けた方が安全であること、病気を無くすための根本的な解決方法は清潔な水をこの村に引いてくることなどです。病気と水が関係していたとはつきりと理解できた村の人たちは、中村さんと協力し、用水路を引くことに成功しました。今、この村は緑で溢れているそうです。

清潔な水を得られない地域は、この村の地にもたくさんあります。私は、これらの中村さんの活動を参考に、全ての地域で清潔な水があることが当たり前になって欲しいと思います。もちろん、寄付によって溜まったお金で必要なものを直接届ける活動の方が人数や労力の面においても、行いやすいとは思いますが、私は清潔な水を得られる日が持続的であることに意味があると思います。私は、どうすれば世界中の人々が清潔な水を飲み続けることができるのかを考えて生活していると